

2025年5月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 5月えんだより

5月の聖句「野の花がどのように育つのか、注意してみなさい。」

マタイによる福音書6章28節

こども園に新しいお友だちや先生たちを迎えてスタートして、早やひと月が過ぎました。子どもたちや先生たち、そして、保護者の皆様も少しずつ新しい生活に慣れてきたのではないかと思います。野や山に目を向けると、日ごとに新緑の緑が色濃くなり、レンゲやたんぽぽ、街路のつつじなども華やかな花を咲かせ私たちに微笑みかけてくれているように思います。こども園の中でも笑顔が徐々に増えつつありますが、この笑顔が更に多く、また、いつまでも続くような歩みを続けられればと思います。

先日、幼児クラスの親子交流会の際に、私たち大人の関り方によって子どもたちの心に傷をつけてしまうかもしれないというお話をさせていただきました。30歳になった息子をみていると、時々「自尊心」の弱さを感じることがあります。そして、その原因の多くは、親である私自身にあるように感じています。今も私自身の心から消えないのですが、彼がまだ幼かったころにUSJに出かけた際、帰りの車でトイレに行きたくなると困るからトイレに行っておくように促すと「大丈夫。」と言った息子。しばらく歩いて車に乗る直前に「トイレ行く！」と。既にトイレは遥か後方になっていました。その時「だから...！」と、こっぴどく叱りつけました。その後しばらく息子は大号泣でした。また、小学校時代に部屋を片付けるように何度促しても片付けない息子に「片付けないなら全て捨ててしまおうぞ！」と言って、それでも片付けなかったものを本当にベランダから庭に捨てたことがありました。この時も息子は大号泣。「子どもが後先のことを考えて、きちんと行動できるように育てること」は「親の務め」と思っていました。けれど、今になって振り返ると...。「お父さんとは話しにくい。どう話したらいいかわからない。」中学生になった息子から相談事があって母親に相談した際に、母親が「お父さんに相談してみたら？」といった時に返ってきた言葉だと聞かされました。子どものためと思ってしていたことが、子どもの「自尊心」を奪ったり、「恐怖心」を与えたりしていたのです。「親として～しなければ」にとらわれた結果のように思います。

私たちの毎日の生活の中には様々なところに「～しなければ」が溢れています。そして、この「～しなければ」は、「子どもの将来への不安」や「自身や家族の将来への不安」が生み出しているように思います。けれども、この「不安」の多くは、自身の力ではどうすることもできないものも多く含まれているようにも思います。更に、「不安」を解消するための行動が、また別の「不安」を生み出すことも...

「～しなければ」から「～した方がいいかもしれない」、「～してみよう」といったものに変えてみることで、「希望のない不安」を生み出すことなく、「希望のある未来」が見えてくるようになるのではないかと思います。そして、私たちのすべてをご存じの神様が子どもたち一人一人に、そして、私たち一人一人に「希望のある未来」を準備してくださっていることを信じて、こども園での新しい年度も神様と共に歩むことができると願っています。

5月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	すこしずつ／だいじょうぶ	動き出して／なんだろう
月の願い	*安心できる大人のそばで、十分に受け止めてもらいながら過ごす。 *自然の音や色に気付いて関心が向いていく。	*保育者や友だちと共に祈り、賛美し、見えない神様を感じる。 *自分の好きなことやまわりのもの、ことに心を停めて、感じて考え動いていく。 *草花や木々の育ち、虫や小動物の命に触れる。
讃美歌	「ひとりひとりのなをよんで」 幼児讃美歌Ⅱ20	「どんなにちいさいことりでも」 こども改58